

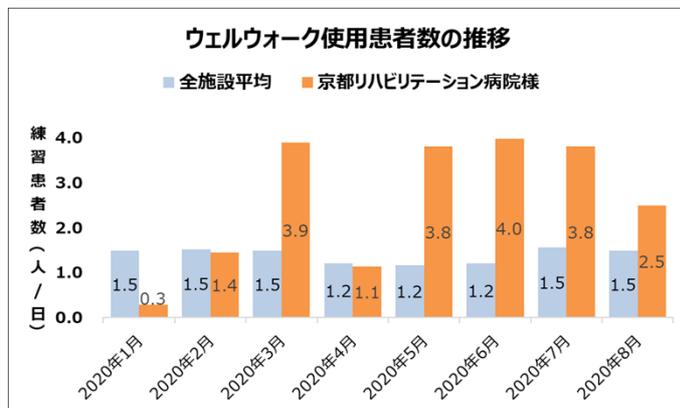
ウェルウォーク通信

日頃はウェルウォークをご活用いただきまして誠にありがとうございます。第7回目は、ウェルウォーク使用患者数の増加が見られている『京都リハビリテーション病院』様をご紹介させていただきます。

京都リハビリテーション病院

京都リハビリテーション病院様は、回復期64床を有し、入院患者の約6割が脳血管疾患で、平均年齢は79.5±11.3歳（入院期間：2019/4/1～2020/3/31）となっています。なお、病院勤務の理学療法士は24名在籍し、その半数の12名がウェルウォーク使用可能です。

ウェルウォーク使用患者数の増加の一助になった取り組みに『**医師も参加するウェルウォークカンファレンス**』が挙げられます。



ウェルウォークカンファレンスの概要

- ウェルウォーク使用可能な療法士とリハ医が参加
- 定期評価の頻度に合わせ、週に1回の頻度で開催
- ウェルウォーク使用中の患者様について患者1人あたり7分間で練習頻度、ウェルウォークで取り組む基準課題、終了時期などを議論（平地歩行の様子も共有）



【ウェルウォークリーダーPT 木下大希先生のお話】

ウェルウォークカンファレンスをリハ医にも参加してもらい週に1回の頻度で行うことで、**個々の療法士からリハ医への相談がしやすくなっている**ように感じます。入院直後から**ウェルウォーク使用に悩むケースは、早期にリハ医と相談を行い、入院後1週間以内にウェルウォークを使用していることが多くなっています**。さらにカンファレンスを通して、**ウェルウォークのメリットや使用を判断する基準が明確にできたこと**で**個々の療法士が積極的にウェルウォークを活用する**ようになっています。

来年からは病院勤務の理学療法士全員がウェルウォークカンファレンスに参加となる予定です。

カンファレンスの効果

- カンファレンスを重ねるにつれて個々の療法士のウェルウォーク適用判断の幅が広がる
- 医師との連携がとりやすくなり、ウェルウォークの使用に悩む患者でも積極的に行きやすくなる
- 適用判断からウェルウォーク練習開始までの期間が短くなり、短期間でウェルウォーク練習終了が予想される患者も介入できる

医師や他の療法士との連携、相談が円滑に進むと適用患者の取りこぼしの減少につながります。また、カンファレンスに医師も参加することでより多角的な視点で議論ができ、ウェルウォーク練習の質の向上につながると思います。ぜひ参考にしてみてください。